

小体研リザルトシステム普及の取り組みについて

(令和7年度 活動報告)

群馬県では、児童の心身の健康と体力の向上、お互いの技能を高め合うための交流の場として、陸上競技における郡市大会～群馬県大会を実施しています。年に一度の開催ですが、児童の参加意識は高く、大会出場を目指して学校・地域の代表選手になれるよう、日々体力作りに励んでいます。また、各郡市が指導法や練習時間を工夫しながら、児童の育成に尽力しています。

小体研情報委員会では、陸上大会の円滑かつ正確な記録処理、作業の効率化と担当者の負担軽減を目指して、リザルトシステムの導入を進めてきました。各郡市の大会運営状況や将来的な見通しを踏まえ、システム操作におけるノウハウの共有や備品の充実、幅広く後進の育成に寄与できるよう、普及プロジェクトを立ち上げ、サポートを行っています。

1. 県内の大会記録処理状況(令和7年度)

令和7年度		前橋	伊勢崎	佐波	北群馬	渋川	利根	沼田	吾妻	高崎	安中	富岡甘楽	藤岡多野	桐生	みどり	太田	邑楽	館林
陸上大会	リザルトシステム	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○					
	エクセルファイル								○					○	○	○	○	
	大会使用PC	自	自	研	研	研	自	自	学	自	自	研	自	自	自	自	自	

【備考】使用PCについて 自:都市保有PC 学:学校のPC 研:小体研保有PC

2. 小体研の考えるリザルトシステムの成果と課題

【成果】

- 申し込みの集約をデータで行うため、集約と処理を短時間で行える。
- 大会のプログラムや記録集をPDFに変換し、郡市内の学校へ一括して配信できる。
- データの互換性を活用して、運営の基礎となるデータファイルの保存・更新や引き継ぎが容易にできる。
- 大会の記録処理に客観性があり、公正な判定ができる。
- ノウハウを共有することで、県内での情報処理ネットワークが広がる。
- 競技結果をWEBページにアップすることで、迅速に対応できる。

【課題】

- システム操作の習得に時間と経験を要する。
- 情報機器の購入について予算立てが課題。
- 引き継ぎと情報処理に関わるスタッフの体制づくり。

3. 小学校大会における情報機器活用の成果と課題【R7アンケート回答より】

- 今後ともパソコンの知識を蓄えながら、システム運用を進めていきたい。
- 困った時に問い合わせたり、サポートをして頂けることが有り難い。

- マニュアルが分かりやすかったので、大きな問題も無く運営できたのは良かった。
- アドバイザーのサポートを受けて、順調に大会運営が出来た。
- 郡市保有のパソコンが古くなってきたので、新しい機器を用意したい。
- エクセルを利用しているが、マクロを組んだ人も既に退職しており、大会中に不備が出ることもあるため、今後の大会運営に不安がある。

4. 小体研が目指すリザルトシステムの活用と取り組みについて

- ① データ集約の効率化支援として、陸上大会のリザルトシステムに関わるエントリーファイルを作成しています。エクセル形式の選手申し込みファイルで、必要な事項を入力すると、システムのインポートに必要な項目をデータ書式に変換できるように工夫されており、更に必要なデータのみを抽出し、1つのシートに結合できる仕組みも備え、CSVデータに変換後、データを一括してインポートできます。ファイルの操作を通して、発生した課題や改善点を踏まえ、年度ごとにアップデートも行っています。

←申し込みシート

結合シート→

- ② リザルトシステムの活用を支援するため、郡市の大会に情報アドバイザーを派遣したり、合同の講習会を開催しながら、サポートを行っています。

- ◆令和7年度にアドバイザーの派遣を行った都市大会 佐波郡・高崎市・藤岡多野
- ◆リザルトシステム講習会（令和7年8月22日：前橋中川小にて）



◆陸上大会のシステム運用について

1. MATシステムについて

陸上リザルトシステム(MATシステム)は、(株)マットシステムが開発した、陸上競技専門の記録運営システムです。このシステムは、国内の主要大会(国民体育大会・ニューイヤー駅伝等)をはじめ、国際大会でも導入され、操作性や判定の即時性で幅広い信頼を得ています。

小体研でも2004年から、このシステムの導入を開始し、我々に先駆けてシステムを活用していた、高体連・中体連の指導・助言を経て、今日に至っています。



記録処理に関する主な流れとしては、

- ①大会に関する基礎データの設定
- ②各校の選手を集約・登録
- ③番組編成(大会プログラム)
- ④印刷製本・配信
- ⑤記録入力・記録処理
- ⑥順位作成・賞状印刷
- ⑦大会後の記録整理・記録集作成・配信 など
- ⑧印刷して製本する。

リザルトシステムの処理作業は、専用のアプリケーションを使って効率的に処理します。プログラム編成はもちろん、ミスの修正や速報・印刷の手早さも、格段に効率が向上しています。作業時間の短縮と担当者の負担を軽減できる有効なシステムとして、小体研では、各都市に紹介・サポートしています。

2. 今年度の取り組みについて

【システム活用例①藤岡多野陸上大会】

システムの導入は4年目となります。手動計時による記録入力を行いました。外付けのHDDをネットワークサーバーとして、複数台のパソコンでデータを共有、スムーズな記録処理が行えました。



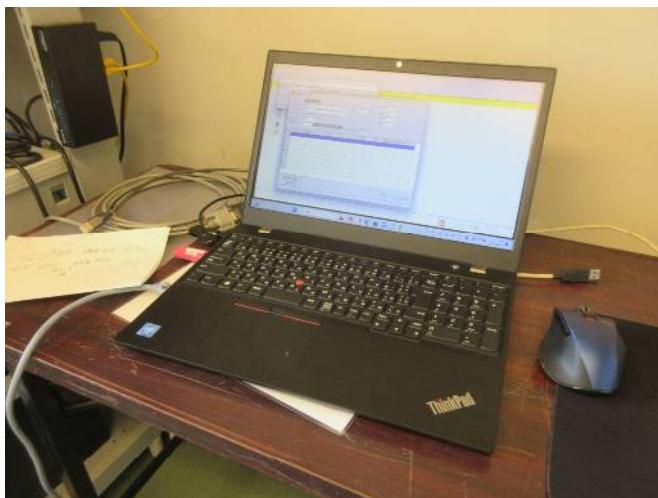
【システム活用例②佐波郡陸上大会】

佐波郡は、午後からの大会(2時間の運営)ですが、伊勢崎陸上競技場の写真判定機を使用できることから、小体研所有のパソコンでネットワークを組み、トラック競技の記録(取り込み)とフィールド競技の記録入力を分担・並行して行うことで、予定時間内に大会を終えることが出来ています。



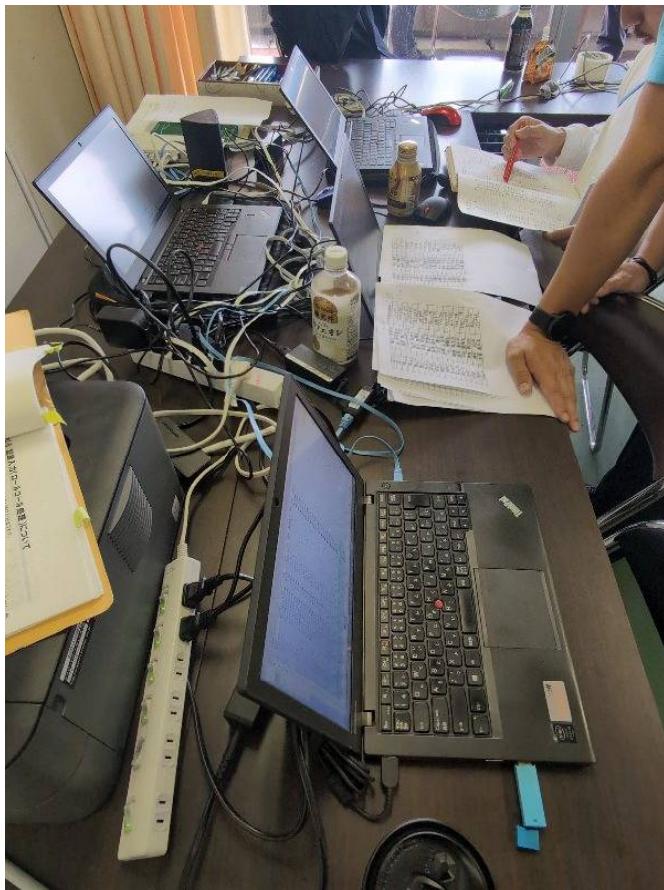
【システム活用例③安中市陸上大会】

昨年度に続いて、もみじ平競技場の写真判定機を使用、地域クラブのサポートを受けながら、少人数による記録処理を行いました。



【システム活用例④高崎市陸上大会】

高崎市は、学校数が58校と大規模のため、リザルトシステムの運用が欠かせません。パソコンを5台所有し、賞状印刷についても独立して係員を配置、円滑な運営が可能となっています。



【システム活用例⑤群馬県陸上大会】

リザルトシステムは、接続台数が多ければ、役割を効率よく分担できるので、作業の集約や交代が容易に行えるメリットがあります。

県大会でもプログラム編成会議や大会当日の記録処理において、多くの先生方に体験して頂くことで、システムの利便性に触れる場となりました。





3.次年度に向けて

- ◆ 今年度より、陸上大会が唯一の対外行事となりました。資料の冒頭でも触れましたが、リザルトシステム活用の課題として、
 - システム操作の習得にある程度の時間がかかる。
 - 情報機器（パソコン・周辺機器）の購入について予算立てが課題。
 - ノウハウの引き継ぎと情報処理に関するスタッフの体制づくり。
- 等が挙げられます。郡市大会の規模に応じて、システムを取り入れるか、エクセルファイルで対応できるかは、各郡市の運営方法にもよりますので、年に一度の大会を運営するにあたり、どちらがメリットが大きいかは、一概には決められませんが、エクセルファイルを作成した担当者が異動等で関われなくなり、マクロの不具合等に対応できないケースも出てきていることから、双方に解決すべき課題があります。
- 陸上大会では、トラック競技とフィールド競技が並行して進行するため、記録処理が忙しくなります。加えてルール面でも細かな確認が必要になることから、システムを活用した方が良い場面もあるでしょう。いずれにしても、限られた人員と経験をもとに、記録を正しく迅速に処理することが求められますので、継続的に体制を整えることが必要です。
- ◆ 近年、他郡市との合同開催を実施する地域が増えてきました。沼田市と利根郡は、同一開催で処理は別個に、渋川市と北群馬郡は、数年前より合同開催に取り組んでおり、競技場に写真判定機が導入されたことを機に、システムを取り入れ、合同開催用のファイルを活用しています。また、藤岡市と多野郡・富岡市と甘楽町のように、ひとつの地域と捉えて、競技を行うケースもあります。
- 合同開催の可否については、各郡市の事情もありますが、大会運営のメリットを考えれば、各郡市の係員派遣人数も調整でき、大会運営についてもお互いにノウハウを共有できる人材を増やすことが可能です。選手数に関わらず、各競技には、審判員を揃える必要があります。効率良い大会の運営を目指して近隣の郡市と協力し、システムを活用することも検討の範囲と考えます。
- 写真判定機と連動してネットワークを組む場合、PCの台数を確保することが課題となります。大会の規模にもよりますが、手動計時の大会であれば、最低2台あればフィールド競技にも対応できると考えます。ネットワーク上のPCは、どんな役割にも対応できるため、大会の進行に応じて弾力的に運用が可能です。
- ◆ システム内蔵のPCを購入する予算立てが難しい点については、例年の課題として挙げられています。限られた予算内で、使用頻度の少ない専用のパソコンを購入することは、なかなか決断しにくい現状があります。その一助として、小体研でも貸し出しのできるPCを数台用意しております。

すので、引き続きサポート体制は維持したいと考えます。直近の課題としては、パソコンのバージョンが古くなり、最新のマシンを取り入れる予算等も組めない状況です。インターネットに接続する必要が無いため、サポートを受けられない状態でも使用に問題はありませんが、セキュリティソフトのアップデート等は、使用前に確認しておくことが大切です。このことは、パソコン所有の各都市にも当てはまりますので、対応をお願い致します。小体研からのアドバイザーの派遣については、都市内の体制を整えながら、早めの申請をお願いできれば幸いです。

- ◆ システムのメリットを活かして、先生方の会議や出張を少しでも減らすことも負担軽減のひとつと考えます。近年、学校・職員間の連絡・共有も容易になってきましたが、ひとつの例として

①陸上大会の要項・提案(夏休み中に実施)【対面全体会議・オンライン全体会議】

②・選手エントリーデータ集約【情報担当者】

・仮番組編成→各校に配信(PDF)※期日を決めて、訂正・修正の申請

③大会プログラム配信【情報担当者】

④大会準備会議【対面全体会議・オンライン全体会議】

⑤大会運営

⑥事後の反省・記録集配信【情報担当者など】

という流れであれば、運動会や陸上練習に忙しくなる2学期の大会前出張を減らすことも可能です。もちろん、エントリーの申し込みやレーン配置の申し合わせなど、全体で細かな部分まで共通理解し合い、ミス無く作業を進めることができることが担当者への大きなサポートとなることを忘れずにお願いしたいと思います。

- ◆ 前述の「ミスを無くす」ことは、大会当日の選手のコンディションを保証するものもあります。例

えば、プログラム上の記載が見当たらなかった・エントリー種目を間違えている・名前の記載に不備があるなど、様々な事例が過去にもあります。ミスがあったとしても大会前であれば、修正が可能ですが、選手や保護者が当日(あるいは直前)にそれを知ったら、どんな思いがするでしょうか。この作業にあたる者として、心に留めておくべきは「小学生にとって大会出場はハレの舞台で、記録は大切な思い出となる。」ことを忘れてはなりません。システムのノウハウを身に付けて大会運営の中核をなすことは、私たちが何らかの特殊な技能を身に付けて、それを発揮しながら、真摯に作業にあたること以外には、何も無いのです。日頃の業務に加えて、不慣れなシステムに携わることは、ややもすれば、面倒で厄介です。ですが、あくまでも「役割の一部」であり、滞りなく大会を進めるために、常に注意深く・常に慎重に・常に慌てず作業にあたることで、選手たちが動搖することなく、力を発揮できる後押しを心掛けて下さい。

◆令和8年度の活動について

アンケートの回答からも、システム操作のノウハウ習得のため、継続して研修の必要性があるという声を耳にしています。小体研でもサポートは継続しますが今後の目標として

○都市内の経験者は、大会係員として参加できるよう格段の配慮をする。

○都市内でシステム操作の講習機会を設ける。

○体育主任に限らず、システム操作経験者の拡大を図る。

ことについて継続して目指して頂けますよう、お願ひ致します。リザルトシステム・エクセルファイルに関わらず、ノウハウの共有・伝達を継続するためには、都市内で人材を育成することが求められます。現時点では、各都市の県情報委員(体育主任会の情報リーダー)が主となり、体制を整えていくのが妥当と考えますが、人事異動については、我々の手の及ぶところではありませんし、大会が円滑に実施できるためには、常に幅広い人材を地域内に求めることが大切です。

また、この取り組みの重要な点は、入力の方法を理解すれば処理は容易ですし、トラックやフィールドの係員と違って、ルールに詳しい必要もありません。番組編成までは、担当者にとって手間がかかりますが、パソコンの基本的な操作が分かれれば、年齢・性別・専門を問わず、運営に参加できますし、次年度にもつながりますので、都市で積極的な働きかけをお願い致します。

令和8年度・主な年間活動予定(案)

5月 評議委員会(情報委員組織)

8月 陸上リザルトシステム講習会(情報委員会)※時期・形態については未定

10月 群市陸上大会サポート・県陸上大会運営

報告書作成 令和8年1月
群馬県小学校体育研究会 情報委員会
文責 瀧 尚史(小体研情報システムアドバイザー)